

平成29～30年度に係る学長の業績評価について

令和元年9月25日
静岡大学長選考会議

静岡大学長選考会議は、平成29～30年度に係る学長の業績評価を実施しましたので、「国立大学法人静岡大学長の業績評価に関する規則」第6条及び「静岡大学長の業績評価の取扱いについて」第5に基づき、下記のとおり公表します。

記

1. 経過

- (1) 2019（平成31）年度第1回学長選考会議（2019（平成31）年4月24日開催）
平成29～30年度に係る学長の業績評価（中間評価）を「静岡大学長の業績評価の取扱いについて」により9月までに実施すること、学長選考会議による学長へのヒアリングを実施すること及び業績評価（中間評価）の概要を本学ウェブサイト公表することを確認した。
- (2) 2019（令和元）年度第2回学長選考会議（2019（令和元）年6月26日開催）
業績評価（中間評価）のスケジュール（学長へのヒアリング日程含む。）、学長が作成する自己評価書様式及び学長選考会議委員が作成する業績評価書様式について確認した。
- (3) 2019（令和元）年度第3回学長選考会議（2019（令和元）年9月11日開催）
学長から、自己評価書に基づき、各評価項目の業績に対する自己評価の説明があり、ヒアリングを実施した。
- (4) 2019（令和元）年度第4回学長選考会議（2019（令和元）年9月25日開催）
平成29～30年度に係る学長の業績評価（中間評価）の最終確認を行った。

2. 評価結果の概要

別紙のとおり

国立大学法人静岡大学学長業績評価 評価結果〔評価概要〕

国立大学法人静岡大学学長選考会議

学長の所信と中期計画等を着実に達成したと認められる

評価対象期間 平成29年4月1日～平成31年3月31日
 評価日 令和元年9月25日

内 容

〔教育〕

地域創造学環における地域との繋がりや、蓄積したノウハウを地域創造学環以外の学部学生に対して広く公開することにより、地域課題解決に取り組む人材の育成のため、「地域づくり副専攻」を開始したことを評価する。

日本初となる光医工学分野の大学院「光医工学専攻（後期3年だけの博士課程）」を平成30年4月の開設に向けて準備を進め、設置認可されたこと、静岡大学の強みである光・電子工学の先端研究の実績と浜松医科大学の強みである光技術を応用した医学研究の実績を融合して教育課程を展開されたことを評価する。

静岡大学、筑波大学、信州大学、山梨大学の4大学と林野庁が連携協定を締結し、野外、特に山岳フィールドに立脚した分野融合型教育を推進し、地球圏—生物圏—人間圏の統合的・持続的な管理に資する高度な専門性を有した人材育成を実現するため、「山岳科学教育プログラム」を開始したこと、「I Love しずおか協議会」との協定締結を機に、地域課題解決型授業（PBL）（地域連携プロジェクト型セミナー）を実施したこと、地域の企業から提供された課題解決を通じて学ぶ「産業イノベーション人材育成プログラム」を開始したこと、新教職大学院の構想を策定し、教育学研究科修士課程の教職大学院への全面移行を進めたことなど、教育に係る多岐にわたる取組は、当初の目標を超えて達成されたと評価する。

障害を持つ学生支援体制の整備として「障害学生支援室」の設置により支援体制の強化を図ったことやIR室を整備し、基礎統計データの収集、「学びの実体調査」の実施など、教学に関して客観的データに基づく分析を実施する体制が整えられたが、設置目的に掲げた機能を十分に果たされるよう、今後の事業展開に期待する。

〔研究〕

日本初となる光医工学分野の大学院「光医工学専攻（後期3年だけの博士課程）」が設置認可され、静岡大学の強みである光・電子工学の先端研究の実績と浜松医科大学の強みである光技術を応用した医学研究の実績を融合して教育研究の強化を図ったことを評価する。

静岡大学の強みを活かし、「重点研究3分野（グリーンバイオ科学、光応用・イメージング、環境・エネルギーシステム）」として全学的な推進体制を整備したことを評価する。

大学として超領域研究推進本部、重点3分野などを制度化して研究を推進している点は評価できるものの、より実質的な成果をあげられるよう期待する。また、「スター的」な研究者の退職・異動等が特に科学研究費補助金の採択金額総額の減につながっていること、「チームとして研究プロジェクトに取り組む体制にはなお弱点を抱えていること」「文理融合を含むプロジェクト研究における文系の存在感が薄いこと」については、引き続き改善策を検討され、対策が講じられることを期待する。

〔社会連携・地域貢献〕

「自由啓発・未来創成」の理念に基づき、地域を志向した大学改革を推進するため、「地域志向大学」を宣言したことを評価する。

「I Love しずおか協議会」との協定締結を機に、地域課題解決型授業（PBL）（地域連携プロジェクト型セミナー）を実施したこと、新素材セルロースナノファイバー（CNF）の研究開発、新製品開発への地域企業の参画、専門人材の育成のため、静岡県富士工業技術支援センター等と産学官連携による「ふじのくにセルロースナノファイバー（CNF）寄附講座（農学部）」を開設したこと、伊豆半島における加茂地区1市5町村との包括連携協定の締結により、従来、県中部・西部と比べて地理的に密な関係を作りづらかった県東部との連携が強化されていることなど、社会連携・地域貢献に係る多岐にわたる取組は、当初の目標を超えて達成されたと評価する。

静岡大学において、地域社会との教育連携の中核的役割を担い、地域志向を持った人材を育成するとともに、教育研究を通じて地域社会が抱える課題解決に寄与することにより、地域社会の発展に貢献することを目的に「地域創造教育センター」を設置されたが、組織強化等の仕組みの強化が必要と考えるので、今後の取組を期待する。また、COC+における県内就職学生数等の目標値を達成するために、一層の努力を期待する。

〔国際交流〕

静岡県内で国際展開をする企業並びに自治体と連携し、海外の日本企業で活躍できる技術と日本語能力を身につけ、静岡とアジア諸国の架け橋として活躍できる中核人材を育成するため、アジアブリッジプログラム（ABP）を推進していることを評価する。

ふじのくに地域・大学コンソーシアムと静岡大学を中心に静岡県内の大学・企業・地方自治体及び民間団体が留学生の就職支援に関するネットワーク・情報等の活動資源を共有し、包括的な連携のもと留学生の静岡県内・国内就職の促進を図る教育・支援プログラムとして、文部科学省「留学生就職促進プログラム」に平成29年度採択（プログラム名称「ふじのくに留学生就職促進プログラム」）され支援体制が順調に整備されたことを評価する。

グローバル対応組織の全学的な再編に向けて国際連携推進機構を設置したが、設置目的に掲げた機能を十分に果たされるよう、今後の事業展開に期待する。

〔大学運営〕

基本理念「自由啓発・未来創成」に基づく、「未来を拓く静岡大学～ビジョンと戦略」を「静岡大学の理念と目標」に改めたことを評価する。

スペースチャージの導入による学内施設長寿命化のための財源の確保、コスト削減及び教職員の意識改革を行ったこと、「浜松キャンパス事務部」を設置したことなどを評価する。

産休、育休からの職場復帰のサポートを行うなど、多様な教職員が働きやすい環境の整備に努めていることを評価する。

浜松医科大学との法人統合・大学再編について、学長の決意が発揮され、任期中の認可を目指し着実に取り組み、法人統合・大学再編で合意書を締結し、静岡大学内にとどまらない教育組織の見直しが進んでいることを評価する。その一方、意思決定に関して説明不足を指摘する声が教員等から挙がっている点には配慮が必要であり、この点に関しては監事ならびに学長選考会議議長からの指摘もなされたので、引き続き学内への説明を行い、統合再編後の将来像につき将来ビジョンの策定、大学の将来像・振興策について検討する専門委員会などを通して、実り豊かな議論、合意形成が行われることを期待する。